

■柴田剛中 幕府官僚。仏陸軍教官招聘や対伊交渉など、開国期外交で活躍、新政府に出仕せずも、諮問には答えた。

しばたけなか

シボトキ来日・1823＝ 江戸小石川で、下級幕臣柴田良通の長男に生まれる。

鼠小僧磔・・1832＝ 9歳：父が死去。幕府の中に跡を継ぐ場は無かったが、

大塩平八郎乱1837＝14歳：

人一倍優れた判断力を持っていたことから、

天保改革始・1841＝18歳：徒目付となり、

阿部正弘首座1845＝22歳：

国定忠治磔・1850＝27歳：

万次郎帰国・1852＝29歳：評定所勤務、

ペリー来航・1853＝30歳：

五ヶ国条約・1858＝35歳：*外国奉行支配組頭となって、神奈川開港に奔走。以後、幕府の外交実務の中心的役割を担い、

安政の大獄・1859＝36歳：

桜田門外変・1860＝37歳：

遣欧使節・・1861＝38歳：_外国奉行組頭として、開港延期交渉のための幕府初の遣欧使節に随行し、使節団員らとともに、

生麦事件・・1862＝39歳：*ナポレオン3世に謁見後、西欧各国を精力的に視察して、ロンドン議定書に調印して、帰国。

函館奉行を務めた後、

薩摩藩士密航1865＝42歳：_大日本外国事務奉行兼理事官の肩書きで、福地源一郎らを従え、再び渡欧。

薩長同盟・・1866＝43歳：*フランス海軍技術者の雇用・陸軍教官招聘工場建設要員の採用・機械類の購入をまとめて、帰国。

大政奉還・・1867＝44歳：*外国奉行・大坂町奉行・兵庫並大坂外国人居留地御用取扱を命じられ、朝廷の許可が得られ無のまま、兵庫に赴き、開港準備に忙殺されるうち、大政奉還となるも、約束期日を守るべく業務を続け、日本側主権者として諸外国と開港書類を交換。直後に王政復古が宣言され、イギリス船に保護されて、江戸に戻る。

明治維新・・1868＝45歳：_幕府の任を免じられ、上総に隠居。

以後、新政府には出仕しなかったが、しばしば諮問を受け、その都度上京して誠実に回答、

明治6年政変 1873＝50歳：

西南戦争・・1877＝54歳：幕臣身分のまま、_没した。